本年度アカデミー賞®&ゴールデン・グローブ賞
主演女優賞 Wノミネート!

大きな岩のような悲しみは
やがてポケットの中の小石に変わる。

ニコール キッドマン　アーロン エッカート　ダイアン ウィースト

ラビット・ホール
Rabbit Hole

監督:ジョン・キャメロン・ミッチェル『ヘドウィグ・アンド・アングリーインチ』

脚本:デヴィッド・リンゼイ=アベアー(同名戯曲〈ピュリツァー賞受賞〉原作者)　出演:ニコール・キッドマン/アーロン・エッカート/ダイアン・ウィースト/サンドラ・オー

原題:RABBIT HOLE/2010年/アメリカ映画/英語/1時間32分/35mm/1:1.85/ドルビーSR、SRD/字幕翻訳:太田直子　配給:ロングライド

LONGRIDE presents an OLYMPUS PICTURES　BLOSSOM FILMS　ODDLOT ENTERTAINMENT production　NICOLE KIDMAN　AARON ECKHART　"RABBIT HOLE"　DIANNE WIEST
TAMMY BLANCHARD MILES TELLER　GIANCARLO ESPOSITO　JON TENNEY and SANDRA OH　music supervisor ROBIN URDANG　music by ANTON SANKO　co-producers　CAROLINE JACZKO　GEOFF LINVILLE
executive producers DAN REVERS　WILLIAM LISCHAK　LINDA McDONOUGH　BRIAN O'SHEA　produced by LESLIE URDANG　DEAN VANECH　NICOLE KIDMAN　PER SAARI　GIGI PRITZKER
screenplay by DAVID LINDSAY-ABAIRE based on his play "Rabbit Hole"　directed by JOHN CAMERON MITCHELL　© 2010 OP EVE 2, LLC. All rights reserved.

一瞬で愛する息子を失くした夫婦。この想定外の境遇は、
"ウサギの穴(ラビット・ホール)"に落っこちた、不思議の国のアリスみたい。

www.rabbit-hole.jp

本年度 アカデミー賞®&ゴールデン・グローブ賞 主演女優賞 ノミネート
ニコール・キッドマン

愛する者を亡くした
悲しみは消えない。
それでも
その悲しみを抱きながら
歩み出すことはできる。
喪失からの再出発を描く
夫婦の愛の物語。

息子の想い出を
すぐにでも忘れたい妻、
いつまでも留めたい夫。
幾度となくほつれかける
ふたりの絆——。

ニューヨーク郊外。瀟洒な邸宅に暮らすベッカ(ニコール)とハウイー(アーロン)夫妻は、何不自由のない日常を送っているかに見える。しかし、ふたりの間にはぎくしゃくとした空気が漂い、ベッカは今にも崩れそうだ。この夫婦は最愛の息子ダニーを亡くした絶望の淵にいた。8ヵ月前、ダニーは走る犬を追いかけ、開け放たれた門扉から飛び出して、交通事故に遭ったのだ。ベッカはダニーの面影から逃げ、ハウイーはダニーとの想い出に浸る。同じ痛みを共有しながらも、夫婦の関係は少しずつほころび始める。
そんなある日、ベッカはダニーの命を奪った車を運転していた少年と遭遇し、彼の後を追う。一方、ハウイーは妻とは別の女性に安らぎを求め……。

全編を通して胸を打つ特別なひと時。
まさにこれぞ映画!
—— TIME

喪失と再生を描いた、これまでのどの作品よりも心が動かされた。
—— Ain't It Cool News

ニコール・キッドマンの
初プロデュース&主演作。
全身全霊で映画化を実現!

『めぐりあう時間たち』でアカデミー賞を受賞し、名実ともにハリウッドを代表するニコール・キッドマンが、初めて製作と主演の大役に挑んだ『ラビット・ホール』。トニー&ピュリツァー両賞に輝くデヴィッド・リンゼイ=アベアーの同名戯曲に感銘を受けたニコールは、自ら映画化に向けて動き出し、念願の企画を実現。虚飾を一切そぎ落とし、ごく普通の女性の複雑にして起伏に富んだ感情を、繊細かつリアルに表現したその演技は全米で絶賛され、アカデミー&ゴールデン・グローブ賞主演女優賞にダブルでのノミネートを果たした。
監督は、センセーショナルな自伝的作品『ヘドウィグ・アンド・アングリーインチ』から新境地を開拓し、本作では成熟の域に迫った演出力を披露しているジョン・キャメロン・ミッチェル。愛する妻と元通りの生活を取り戻そうと努める夫に『ダークナイト』のトゥーフェイス役で世界中を驚かせたアーロン・エッカート。二度のアカデミー賞受賞を誇る名女優ダイアン・ウィーストがベッカの母親に扮している。

「今は悲しいバージョンだけど、
別バージョンでは楽しく暮らしてる。」
「それはステキな考えね。」
絶望の中においても、希望のありかを見出す、人間の再生力。

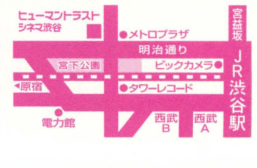
喪失からの再生というテーマを真摯に探求したこの物語は、大きな悲しみもいつしか変わりゆくことを"ポケットの小石"に例え、観る者にそっと寄り添う。図書館で借りた"パラレル・ワールド"のアイデアを得て、少年が創り出したコミックの世界——"たくさんのあなたや僕があちこちに漂っていて、楽しく暮らしてるあなたもいる"。——ポケットの中の小石は決して消えない。それでも、小石とともに新たな人生に踏み出す、そのきっかけを与えてくれるこのエピソードは、ベッカの心を溶かし、夫婦の絆を再び結ぶだけでなく、人に備わった再生力への希望を示す我々へのメッセージでもある。都合のいい奇跡が舞い降りてきたようなハッピーエンドを避け、なおかつ確かにポジティブな余韻を残すラストシーンは、私たちすべてに愛おしい温もりを届けるに違いない。

タイトルの"ラビット・ホール"とは『不思議の国のアリス』に由来する。
夫婦をおそった突然の悲劇を、白ウサギに誘われてワンダーランドに
落っこちた少女アリスのシュールな体験になぞらえている。

ラビット・ホール Rabbit Hole

www.rabbit-hole.jp PG12

監督:ジョン・キャメロン・ミッチェル『ヘドウィグ・アンド・アングリーインチ』 脚本:デヴィッド・リンゼイ=アベアー(同名戯曲〈ピュリツァー賞受賞〉原作者)
出演:ニコール・キッドマン/アーロン・エッカート/ダイアン・ウィースト/サンドラ・オー 配給:ロングライド

11/5(土) ロードショー!
特別鑑賞券¥1,500(税込)絶賛発売中! 当日一般¥1,800のところ

明治通り沿い 地下鉄13番出口正面 ココチビル8F
ヒューマントラスト シネマ渋谷
03(5468)5551 www.ttcg.jp
テアトルシネマグループ